

## 農民の暮らし

II-5



II-5

巨大な古墳をつくった豪族(ごうぞく)たちの権力(けんりく)は、農民から得(え)た富(とみ)によって生み出されました。彼らは鉄製の道具を取り入れて農業生産力の拡大(かくたい)を図(はか)りました。農民たちは日々の農作業に従事(じゆうじ)するばかりではなく、新(あらた)たな耕地(けんち)の開発(かいはつ)や古墳(こふん)づくりなどといった土木工(とらふこう)事の労働(ろうどう)も強(つよ)いられたと考えられています。

II-5

## 名取市内にある古墳時代の主な集落遺跡

III

### ① 野田山遺跡

野田山(のだけやま)遺跡は、野田山丘陵の東側の先に位置しています。平成3年と平成12年に行われた発掘調査で、古墳時代前期(4世紀)の住居跡があわせて20軒(けん)発見されています。住居跡の床からは、煮炊(にち)きをした炉(ろ)の跡や食物をたくわえておく貯蔵穴(ちよぞうあな)の跡、住居に出入りするための施設(せつか)にかかわる痕跡(こんせき)、住居内の空間を区画する施設の痕跡など、当時の住居のつくりを考える上で、貴重な資料がえられています。



III-1-①

III-1-①-a



III-1-①-b



III-1-①-c



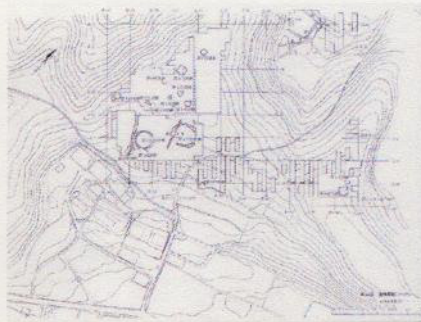
III-1-①-d

### ② 西野田遺跡

西野田(にしのだ)遺跡は、野田山丘陵の西側に位置しています。昭和47年に行われた発掘調査で、古墳時代前期(4世紀)の住居跡が11軒、円形周溝(えんけいしゅうこう)が2基(き)発見されています。

住居跡は丘陵の高いところから北側斜面で、円形周溝(えんけいしゅうこう)は南側斜面で、重(かさ)ならない状態で見つかっています。住居をたてた日常生活の場と、墓と考えられる円形周溝(えんけいしゅうこう)がつくられた場とのかかわりから、古墳時代の始まるころの集落のあり方考える上で貴重な遺跡です。

III-2-①



III-2-②



III-2-③